

令和4年9月8日

報道機関 各位

国立大学法人 電気通信大学

**多摩イノベーションエコシステム促進事業  
「リーディングプロジェクト」に  
電気通信大学認定ベンチャーである  
株式会社 B-STORM、株式会社 Ch i C a R o の 2 社 が 選 定**

東京都事業「多摩イノベーションエコシステム促進事業」におけるリーディングプロジェクトに、電気通信大学の認定ベンチャーである株式会社 B-STORM（本社：東京都調布市、代表取締役会長：志村則彰）及び、株式会社 Ch i C a R o（本社：東京都調布市、代表取締役社長：奥温子）の 2 社が選定されました。

**【多摩イノベーションエコシステム促進事業とは】**

東京都は、『未来の東京』戦略ビジョンを踏まえ、多摩地域でイノベーションを持続的に創出するエコシステムの形成に取り組むため、地域の経済団体や支援機関とともに「多摩イノベーションエコシステム実行委員会」を設置しています。このたび、多摩地域でのイノベーション創出のアドバルーンとなる「リーディングプロジェクト」を作り出すため、研究開発を終えた製品・サービスの社会実装に向けた検証に取り組む企業等を募集し、その選定結果が発表されました。



＜リーディングプロジェクトに選定された、電気通信大学の認定ベンチャー2社＞

**【選定されたプロジェクトの主な要件とテーマ】**

（2022年8月17日現在、リーディングプロジェクト全体で14社が選定）

- ①以下の9テーマのいずれかに該当する取組であること  
（9テーマは：「環境・エネルギー」「健康・医療」「子ども・教育」「安全・安心」「観光・レジャー」「物流・モビリティ」「コミュニティ活性化」「ビジネスモデル改革」「人材確保・育成」）
- ②多摩地域における地域や企業の課題、特徴、ユニークさを踏まえた取組であること
- ③研究開発を終えた製品・サービスの社会実装に向けた検証を多摩地域内で実施すること 等



## 子ども・教育

人口減少が続く中、子育て世代が暮らしやすい環境づくりが必要

### 【株式会社ChiCaRo】

プロジェクト名：アバターロボットを活用した遠隔保育サービスの検証

連携先：株式会社シーズプレイス

国立大学法人電気通信大学

URL：<https://tama-innovation-ecosystem.jp/project/education/387/>

＜背景＞：少子化によるさらなる人口減少が見込まれる中、子育て世代が暮らしやすい仕組みづくりが社会で求められています。多摩地域には、区部と比較して移動が不便なエリアがあるため、移動が障壁となり、子育ての取組や制度を有効活用できず、子どもと関わる機会が限られてしまうケースが存在します。

今後多摩地域を更に子育てがしやすい地域としていくためには先進的な取組が必要と考えています。

＜取組内容＞：子育て・保育の場にアバターロボット「ChiCaRo」を導入することで、どこからでも子どもに関わることができる遠隔保育サービスを提供します。

本実証では、多摩地域内の保育園運営会社と連携して、主に以下の取組を行います。

(1)保育園と保護者の接点である保育参観に ChiCaRo を導入し、保護者が普段見ることのできない子どもの様子を知り、子どもへの理解を深める機会を提供する。

(2)子ども広場に ChiCaRo を導入し、保育士などの専門職が ChiCaRo を通して子どもと関わることで、保護者に対して子どもへの関わり方を学ぶ機会を提供する。



＜ChiCaRo の開発した遠隔共同子育てロボット＞



＜ChiCaRo プロジェクトのメンバー＞



## 物流・モビリティ

ECなどに伴う物流の効率化や交通弱者への対応が課題

### 【株式会社 B-STORM】

プロジェクト名：自動走行搬送型ロボット (AMR) を活用した物流倉庫におけるカートピッキングシステムの検証

連携先：東京システム運輸ホールディングス株式会社  
国立大学法人電気通信大学  
株式会社ドコモビジネスソリューションズ

URL: <https://tama-innovation-ecosystem.jp/project/logistics/388/>

<背景>：多摩地域には東京都内の膨大な配送需要を支える中小の倉庫部門・業者が多数存在します。近年、EC の拡大に伴う配送需要の増加や少子高齢化による人口減少などの影響により、物流倉庫部門・事業所では人手不足が課題であり、特に中小企業の倉庫部門では顕著となっています。

倉庫部門において特にピッキング業務のデジタル化は、自動ピッキングシステム導入に係る初期費用の高さ、既存倉庫システムとの連携の難易度の高さなどにより進んでおらず、各種倉庫事業者でニーズが高いと考えられます。

<取組内容>：これまで作業員が行ってきた物流倉庫における商品の出荷作業について、自律走行搬送型ロボットの活用により、さらなる効率化・省人化を図ります。

自律走行搬送型ロボットの機能として、倉庫システムからの伝票内容の自動連係のほか、1日分の伝票から倉庫内の最短ルートを算出し、複数台が渋滞することなく走行できるか等を、多摩地域の企業や大学等と連携して検証します。



<カートピッキングシステムと B-STORM 社及び連携先メンバー>

**【連絡先】**

<電気通信大学認定ベンチャーに関する事>

電気通信大学 産学官連携センターベンチャー支援部門

副部門長 高木克人（特任准教授）

Tel : 042-443-5973 E-Mail : [venture@sangaku.uec.ac.jp](mailto:venture@sangaku.uec.ac.jp)

<報道に関する事>

電気通信大学 総務企画課 広報係

Tel : 042-443-5019 Fax : 042-443-5887

E-Mail : [kouhou-k@office.uec.ac.jp](mailto:kouhou-k@office.uec.ac.jp)